第2回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和元年8月28日（水）午後1時30分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室4
- 3 出席者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、米山委員、柏木委員

関係者：UMECO指定管理者 露木センター長、椎野副センター長、奥津氏、桂氏
（議題（1）のみ）

事務局：府川課長、森係長、岡崎主査、樽木主事

4 資料：

- ・次第
- ・資料 1-1 令和2年度以降に交付する市民活動応援補助金について
- ・資料 1-2 令和2年度実施分小田原市市民活動応援補助金応募の手引き（案）
- ・資料 2 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会アンケート結果
- ・資料 3-1 小田原市市民提案型協働事業（令和2年度実施分）第2次審査対象事業
- ・資料 3-2 市民提案型協働事業第2次審査実施要領（案）
- ・資料 3-3 市民提案型協働事業第2次審査採点表（案）
- ・資料 4-1 第9期諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす」の進め方（案）
- ・資料 4-2 市民活動登録団体名簿
- ・資料 4-3 小田原市内におけるNPO法人一覧
- ・資料 4-4 市民活動団体の地域における協力状況について
- ・資料 4-5 地域別計画（抜粋）
- ・資料 4-6 地域における課題について
- ・資料 4-7 2019年度おだわら市民交流センターUMECO事業実施計画

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）市民活動応援補助金について

委員長：それでは、議題（1）市民活動応援補助金について、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本議題に関し、おだわら市民交流センターの指定管理者にお越しいただいている。それでは、まず事務局より、ご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 1-1 に基づいて説明）

委員長：引き続き、指定管理者の方からご説明をお願いしたい。

（指定管理者 資料 1-2 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

応募の手引きについて、問合せ先は従前は市役所地域政策課であったため、対応可能な時間は原則として平日8時30分から17時15分となっていたと思うが、UMECOではどうなるのか。また、事前相談はどの職員でも対応できるのか。

指定管理者：9時から21時30分が開館時間となるが、全職員が対応可能というわけにはいかないので、夜間の相談対応等を希望される場合は特に、事前の予約をお願いしたいと考えている。なお、月に一回、第1土曜日に予約相談を実施しているので、そちらもご活用いただきたいと考えている。

委員長：補助金審査の結果、仮にUMECO市民活動応援補助金の交付対象事業がなかった場合は、寄附金はどうするのか。

事務局：審査順が小田原市市民活動応援補助金、UMECO市民活動応援補助金であるので、ご質問のケースでは寄附金を翌年度に繰り越すという形になる。

申請件数が多ければ起きにくいケースと考えられるが、小田原市市民活動応援補助金の窓口を市役所よりも団体に身近なUMECOに変更したことで、団体にとって申請しやすくなると考えられるので、申請件数の増加は十分期待できる。

指定管理者：当施設の窓口では、熱心な団体が多く見られる。そういった団体、特に市民活動応援補助金に応募したことのない方に補助金の案内を行い、すそ野を広げてまいりたい。

委員：現在の寄附金額は約 22 万円ということである。募金箱は匿名の寄附として、それ以外はどのように受け付けているのか。

指定管理者：20 万円については口座振込、2 万円については窓口で現金で受け取った。いずれも領収書やお礼状をお渡ししている。

委員：10 万円単位の寄附者が継続的に現れればよいが、どのように PR するのか。

指定管理者：個人の寄附者だと継続的というのは難しいので、企業等にも働きかける必要があると考えている。

委員長：寄附を集める場合、財源がなくなり、補助金先細りする懸念がある。寄附による成果等を PR していく必要がある。

事務局：20 万円の寄附については、市民活動団体に所属されている方からのものであったが、UMECO だよりで大きく紹介した。今後も寄附をいただいたことや交付対象事業を公表する際等、ご指摘を踏まえ機を逃さず PR してまいりたい。

委員長：それでは、議題（1）については終了する。指定管理者はこれで退席となる。本日は、大変お忙しいところ、時間をさいいただき感謝する。

■ 議題（2）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

委員長：それでは、議題（2）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業について、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料 2 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：事業報告は 14 時 40 分から 15 時 55 分と、非常に短い時間の実施であるが、いつから、どのような経緯でこのような方法となったのか。

事務局：以前は、なるべく多くの方が多くの事業報告を聞けるよう、同じ報告を 2 回繰り返していたこともある。団体の負担感が大きいことなどから、現在は 1 回ずつの事業報告とするとともに、後半に交流会を行うことで報告を聞けなかった団体との交流を補っている。現行の方法となったのは、平成 29 年度からである。

委員：事業実施団体同士が、お互いの報告を聞くことができないというのは違和感がある。アンケートの自由記載欄には「プロジェクターを使用できるとよかった」という意見もあったようだ。プロジェクター等で視覚的に説明できるのであれば短時間でもよいと思うが、口頭でというのは難しいと感じる。また、後半の交流会が 50 分間と、事業報告が 1 時間強であることを踏まえると長すぎると感じる。

委員：前期で一回出席したが、言葉だけで報告している団体はどうしても内容が抽象的になってしまい、割り当てられた時間を短く感じていたと思う。団体によっては、フリップを活用して写真を見せるなどしており、発表者側の工夫が重要と感じた。

委員：報告する側の団体に呼ばれ、UMECO での事業報告会を一度拝見したことがある。その団体に関しては、プロジェクターはなくても紙の資料等で補っており、特に問題は感じられなかった。また、来場者としては、聞いてみたい団体の報告があらかじめ決まっていることも多く、同時並行での進行もそれほど違和感を感じない。

委員長：事業報告会については、以前は数団体のみ選定して報告していただいたこともあったが補助金制度の透明性を高めるため、全事業での報告を必須とするなど、徐々に改善して現在の状態になっている。平日の夕方から実施していた時は、途中で参加者が帰ってしまう問題があり、2 回報告を繰り返していた時も全体の時間が長くなることから同様の問題があった。プロジェクターについては検討の余地があるかもしれない。

委員：プロジェクターは場所をとるので、複数ブースの場合は難しいのではないかと。

委員：プロジェクターは、不慣れな団体もおり、現行のように各ブースで一斉に報告をスタートする方法では難しいと感じる。報告する団体に、紙媒体の資料を配ったり、パネルを用意すると良い、等のアドバイスを事務局から伝えるのが現実的であると考えている。

事務局：現在は団体のジャンルごとに大まかにブースを分け、例えば A ブースは子育て関係の団

体が報告する場とすることで、特定の分野に興味のある方が当該団体の報告を聞けないことがないように配慮している。今後、報告時に動画を撮影し、後日ホームページにアップすれば、どなたでも全事業の報告を聞くことが可能となる。また、ブースの数を増やすことで、報告時間を延ばすことも可能なので、併せて検討してまいりたい。

委員長：撮影機材はどうするのか。

事務局：三脚をブースの数だけ用意し、各自のスマートフォンで撮影すること等で対応できると考えている。

委員：来場者が関係者しかいない状況だが、動画で発信できればPR効果も期待できる。ただし、ホームページで見られるようにすると、かえって来場者が減るといった懸念もあるが、何か対策はあるか。

事務局：報告団体に口コミで報告会のことを広めていただく等、情報を受け取っていただけるような方法を模索したい。委員の皆様にも、ぜひ周知にご協力いただきたい。

■ 議題（3）市民提案型協働事業について

委員長：次に、議題（3）市民提案型協働事業について、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料 3-1～3-3 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：「全世代対象の地域づくり」事業は、社会福祉協議会に関係するものと見受けられる。市から受託している「福祉まるごと相談」等により、いわゆる 8050 問題である親が要介護、子どもは引きこもりといった複合的な課題への対応を図っているが、まさにそういった内容にも踏み込んだ提案であることから、既存事業との重複を解消する必要がある。

事務局：第1次審査において、提案事業所管部局からオブザーバーが出席しており、既存事業との調整、役割分担の協議・精査が必要との意見があった。第2次審査に向けて、提案団体が中心となり諸調整を行っていただくこととなっている。

■ 議題（4）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」

委員長：次に、議題（4）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料 4-1～4-7 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

資料 4-2 は、インターネット等で誰でも閲覧可能か。

また、事業の説明が記載されていないが、これを見た地域の方は、何のための名簿か分からないのではないか。

さらに、細かいことであるが表紙の2行目、「豊かな」は「豊かな」の誤りと思われる。

事務局：希望者があれば冊子を配布しているが、インターネット上での公開は行っていないと聞いている。なお、UMECOに登録しているすべての団体の情報はUMECOのホームページで検索できるが、地域活動団体ネットワーク形成事業に参加しているかどうかは表示がない。

名簿については各自治会長に配布しており、また年1回更新しているが、配布時には別途送付文等により説明を行うとともに、新任自治会長には研修時に説明を行っている。

表紙の指摘箇所については誤字であるので、修正するよう指定管理者に伝える。

委員長：せっかく作っている名簿である。公開を含めより効果的な形を模索すべきであろう。

続いて、資料 4-3 であるが、全 83 の市内NPO法人のうち、UMECOへの登録は 18 団体と少ないことについて、どのように考えているか。

事務局：NPO法人は、例えば独自に活動の場を持っているなど、UMECOの支援を必要とせず、自立した運営を行っているところが多いと考えている。また、相談先も神奈川県より専門性の高い窓口としているのではないか。

今後、PRへの協力や協働先のコーディネートなどにより、NPO法人にUMECOの必要性、有用性を感じていただけるようにしていきたい。

委員長：より多くのNPO法人に、UMECOと積極的に関わっていただくことで、地域の課題

を解決することにもつながると考えられる。このことは、資料 4-6 で地域が課題として
いる事項について、NPO法人の活動分野と重複する部分が多く見受けられることから
もうかがえる。

事務局：UMECOと地域、UMECOとNPO法人をつなぐネットワークができれば、地域の
課題を解決できるNPO法人をUMECOがマッチングすることも可能となると考えて
いる。

委員長：登録団体以外でも、UMECOからコンタクトをとってもよいだろう。引き受けていた
だけかかどうかはNPO法人の判断となる。次回以降で、指定管理者から考え方等を聞き
取り、意見交換を行いたい。

委員：登録団体名簿については、連合会長ではなく単位自治会長に配布しているということ
でよいか。

また、市内NPO法人の一覧も配布しているのか。配布していない場合は、その理由は何
か。

事務局：登録団体名簿は単位自治会長に配布している。なお、自治会長の交代と登録団体名簿の
更新のタイミングが一致していないので、自治会によっては引継ぎが十分でない等の理
由でお持ちでないところもあるかもしれない。

市内NPO法人の一覧については、配布していない。内閣府のホームページ等で公開さ
れている情報ではあるが、一覧にして配布するのであれば、行政としてはNPO法人か
らの事前の了承が必要と考えている。

まずは、UMECOの登録団体を周知することが先と考えている。

委員：自治会長にUMECO窓口に来ていただけると一番ありがたいが、現実には難しい。ま
た、積極的にインターネットで情報収集するという地域の方も多くはないだろう。書類
には詳しくわかりやすく書くべきと考える。

登録団体の中には、人員や活動範囲等いろいろな課題で実際には地域のニーズに応えら
れないところもあるだろう。本日、NPO法人が市内にこれだけあり、そのうち一部し
かUMECOに登録していないことを知ったが、今後、NPO法人に協力いただけるよ
うになれば、地域の課題解決に大きく前進すると感じる。

委員長：市内NPO法人一覧の資料は、この形でインターネット上に公開されているわけではな
い。事務局において労力をかけてまとめたもので、情報を必要とする者にとっては便利
な資料であり、より積極的に活用していただきたい。

事務局：NPO法人によっては、地域とのマッチングを望まないかもしれない。今後のアンケー
ト調査において、意向を確認する設問が必要と感じている。

委員：NPO法人からすると、UMECOに登録するためには窓口に来なければならないこと
や登録のメリットが不明瞭なことがハードルとなっているのではないかと。活動エリアが
利用できるといったメリットは、それほど知られていないだろう。現行はNPO法人に
電話をかけ、登録を勧めていると思うが、方法を工夫すべきである。

私は自治会でも活動をしているが、登録団体名簿については見たことがない。先日、自
主防災に係る講座を開催することになったが、この名簿を活用しようという話にはなら
なかった。自治会長にUMECOの取組をもっと周知する必要がある。

仮に市の取組を理解している自治会長等の視点では、けやきにおいて発行している自分
時間手帖との棲み分けが理解しがたいと思われる。地域で困ったことがあった時に、
UMECOとけやきのどちらに相談すればいいのか迷ってしまうのではないかと。一本化や、
連携の予定はあるのか。

事務局：自分時間手帖には、市職員が講師を務めるきらめき出前講座、きらめき体験学習の一覧
のほか、各種団体やサークルの紹介、市民の方等がボランティア講師を務めるキャン
パス講師名簿等が掲載されている。全体として、生涯学習の観点からまとめられたもの
である。

UMECOの登録団体名簿については、生涯学習に限らず市民活動全般の情報としてま
とめたもので、自分時間手帖と重複している部分がある。

地域の方が情報を得るチャンネルは多い方が良く考えており、一本化する予定は現時

- 点ではないが、連携については検討の余地があるかもしれない。
- 委員：UMECOで相談を受けた時に、生涯学習に係る内容であればその窓口や自分時間手帖を紹介するなど、柔軟に対応いただきたい。
- 委員：市民活動団体側から見ても、登録団体名簿は多くの団体の活動内容が掲載されており、有用と思われるが、以前、UMECO窓口到他団体を紹介してほしいと依頼したところ、断られてしまったことがある。UMECOでは団体同士のマッチングも手掛けていると思うので、それを周知するとともに、できれば気軽に紹介していただけるとありがたい。
- 委員：けやきとUMECOの両方に団体登録しているが、けやきでは講習会、UMECOではつながりづくり、という風に事業内容に違いを感じている。この特徴から、UMECOに団体を紹介していただけるよう依頼したところ、吊るし雛を手作りしている団体とつながることができた。登録団体名簿には「地域のために何かをしたい」という団体が掲載されているので、ぜひ名簿を活用し、つながりをつくっていただきたい。
- 委員：登録団体を見てみると、趣味の団体が多く、自治会等で依頼しようと思うかは疑問がある。防災等、分野によっては非常に団体が限られている。地域にとって、魅力のある団体が少ないのではないか。
- 以前、私が地域の課題意識に基づき講師を探そうと思ったときは、消費生活相談センターに相談し、斡旋をしていただいた。認知症サポーター養成講座も同様であった。
- 現状では、地域の方も自分でインターネット等を用いて情報収集することも多く、「UMECOや市民活動団体に依頼できる」という意識が形成されていないと感じる。
- 事務局：ご指摘のとおり、登録団体のうち文化・芸術・スポーツを活動分野としている団体が約35%、社会教育が19%となっており、半分以上がけやきにも登録のあるような生涯学習系の団体である。
- 課題解決型の団体を増やす必要があると考えており、今後のアンケート調査の中で「活動を課題解決型にシフトする余地があるか」というような設問も盛り込みたいと考えている。また、そうした意向のある団体に積極的に働きかけ、登録団体名簿が充実するよう努めてまいりたい。
- 委員長：資料4-4の裏面を見ると、UMECOが地域と団体をマッチングした実績が掲載されているが、多くが高齢者等への慰問の活動である。慰問自体は重要なことであるが、先日実施したUMECOの第三者評価においても指摘したとおり、地域の課題を幅広く積極的に把握し、解決に向けて取り組む必要がある。有効な取組を検討することが今期の本委員会の重要なテーマであるので、今後もぜひご意見をいただきたい。
- 登録団体名簿の団体概要については、記載内容を各団体に任せており、その結果内容にばらつきが生じていると思われる。中には、地域の方が頼みたくなりそうな、前向きなことを記載している団体も見受けられる。団体の負担は考慮する必要があるが、どんな活動をしていて、どんなお手伝いができるか、というような最低限のフォーマットを定めるなど、わかりやすい表記に努める必要があると考える。
- 資料4-1裏面のヒアリング概要については、何か意見等はあるか。
- 委員：特に対象の地域活動団体については、位置や世帯数など、なるべく偏りのないようお願いしたい。
- ヒアリングは自治会連合会単位か、単位自治会単位か。
- 事務局：単位自治会においては地域の課題が矮小化してしまったり、そもそも顕在化しないことも多いと考えられる。様々な団体関わって課題を解決するという前提があるので、基本的には自治会連合会単位を想定している。ただし、結果的に単位自治会からUMECOに依頼することを拒むものではない。
- 委員：単位自治会においては役員の任期も短いことが多く、地域の課題にまで考え至ることは少ないと思われる。
- 委員：地域が団体の協力を望んでいない可能性もあり、そういった意見も把握すべきと考えるので、そういったことも踏まえて対象を選定していただきたい。
- 事務局：地域にニーズがあるのか、また役員が正確に把握しているのかも重要であるので、ご意見を踏まえ検討したい。

まずは、事務局で検討したパターンのヒアリング結果を次回お示しし、不足するようであれば追加でヒアリングを実施する等、対応させていただきたい。

委員：単位自治会において敬老会等の地域の行事を実施するところは多く、資料 4-5 裏面のとおり、団体に協力いただいた実績もある。26 地区ごとに地域コミュニティ組織を発足させ、防災や福祉等さまざまな分野で活動を行っているが、資料 4-6 のとおり、地域ごとに問題意識を持っていることは間違いない。

登録団体名簿については、UMECO や団体が地域に出向いてくれるのかなど、全体の流れがわからないものとなっている。地域にとって活用しやすい名簿はどのようなものか、リサーチする必要がある。

私の住む地区では、名簿は公民館に配架し、誰でも見られるようにしているものの、十分には活用されていない状況である。しかし、わかりやすい冊子ができれば、年間計画を立てる際などに参考になると考えている。

委員：名簿の団体概要は、UMECO に登録するときの団体概要をそのまま流用していると思うが、地域活動団体ネットワーク形成事業用に、たくさんの団体の概要を一覧で見られるようなボリュームの団体概要を作成すると、地域の方にアピールできて良いかもしれない。

委員長：単位自治会レベルで活動が活発かどうかというのは把握しているのか。

事務局：単位自治会レベルでは把握していない。

委員長：そういった情報の有無も踏まえ、事務局において対象を選定するとともに、後日必要に応じてヒアリングを追加実施することとする。

市民活動団体については3つの候補が挙げられているが、これで足りるのか。

事務局：後日、幅広くアンケート調査を実施する予定であるが、その質問項目を検討するためのヒアリングであるので、団体数は3つで十分と考えている。

委員長：それでは、案のとおり、次回委員会までに事務局においてヒアリングを実施することとする。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

(事務局 今後の会議日程の調整)

※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。

第3回委員会・・・令和元年10月25日(金)午後3時 市役所

第6回委員会・・・令和2年3月8日(日)終日 UMECO

■ 閉会